

授業計画(シラバス)

科目名	キャリアプラン I		指導担当者名	高田 明日香
実務経験				実務経験:
開講時期	前期	対象学科学年	医療事務科1年	
授業方法	講義:○	演習:	実習:	実技:
時間数	32時間	週時間数	2時間	
学習到達目標	新しい環境に早く慣れ、様々な場面で柔軟に対応できるよう指導。 また、基本的なビジネスマナーを身に付け、就職活動の準備に向けた意識づけをする。			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。 期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。 A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。			
使用教材	配布プリント			
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。			
学期	ターム	項 目	内容・準備資料等	
授業計画 前期	1	クラス内でオリエンテーション	今後の目標等の設定、クラス運営について	
	2	新入生ビジネスマナーに向けて	事前準備	
	3	バスハイクについて	事前準備	
	4	バスハイクについて	事前準備	
	5	バスハイクまとめ	まとめ	
	6	コミュニケーションの基本を身につける	話し方、挨拶	
	7	正しい日本語を身につける	現在の日本語を考える、正しい言葉遣い	
	8	話すときの心構えを理解する	聞き手を意識した心構え・話題の広げ方	
	9	効果的な話し方を身につける	効果的な話し方	
	10	面接について	面接のポイントを理解する	
	11	自己分析	自己理解	
	12	自己PRを考える	自己PRできるものを考える	
	13	自己PR作成	自己PR作成	
	14	求職票受理面接対策	求職票受理面接とは	
	15	求職票受理面接対策	求職票の書き方	
	16	期末テスト	期末テスト	
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。				

授業計画(シラバス)

科目名	コミュニケーション論Ⅰ		指導担当者名	高田 明日香
実務経験				実務経験:
開講時期	後期		対象学科学年	医療事務科1年
授業方法	講義:○	演習:	実習:	実技:
時間数	32時間		週時間数	2時間
学習到達目標	グループワークを通して、クラス内での意見交換を実施。就職に向けコミュニケーション能力を高める。 求職票受理面接対策			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。 期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。 A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。			
使用教材	実践行動学part2 プリント			
授業外学習 の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。			
学期	ターム	項 目	内容・準備資料等	
授業計画 後期	17	実践行動学part2	Part1の振り返り、マジックドア1	
	18	実践行動学part2	マジックドア2・3	
	19	実践行動学part2	マジックドア4・5	
	20	実践行動学Part2	目標設定	
	21	求職票受理面接対策	求職票の書き方	
	22	求職票受理面接対策	面接の仕方・面接の内容	
	23	求職票受理面接対策	面接練習	
	24	求職票受理面接対策	面接練習	
	25	実践行動学part3	マジックドア1・2	
	26	実践行動学part3	マジックドア3・4	
	27	実践行動学part3	マジックドア5	
	28	就職について	一般的なビジネスマナー	
	29	就職について	就職にあたっての心構え	
	30	就職について	医療事務業務の確認	
	31	就職について	まとめ	
	32	期末試験		
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。				

授業計画(シラバス)

科目名	医療保険事務1		指導担当者名	篠塚 琴恵	
実務経験	首都圏の医療機関にて臨床検査技師として業務に11年間従事			実務経験:	有
開講時期	前期		対象学科学年	医療事務科1年	
授業方法	講義:○	演習:	実習:	実技:	
時間数	32時間		週時間数	2時間	
学習到達目標	医療事務技能認定試験(9月受験予定)医科医療事務管理士技能認定試験(11月受験予定)を目標に学習。※その他奇数月に検定実施。 全員が合格するまで実施する。 検定試験合格に向けて、医療保険制度・診療報酬算定の仕組みを理解し、幅広い基礎力を身に着ける。				
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。 期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。 A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。				
使用教材	医科テキスト2～4(算定とレセプト上・下、トレーニングブック)、資料ブック、理解度チェック				
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。				
学期	ターム	項 目	内容・準備資料等		
授業計画 前期	1	医療従事者としての基本と心構え 医療事務の仕事①～④	医療事務の基礎知識		
	2	初・再診	初・再診料の算定方法を学ぶ		
	3	投薬	投薬の仕組み・算定方法を学ぶ		
	4	投薬	投薬の仕組み・算定方法を学ぶ		
	5	注射	注射の算定方法を学ぶ		
	6	医学管理 在宅医療	医学管理・在宅の算定方法を学ぶ		
	7	処置 リハビリテーション	処置・リハビリテーションの算定方法を学ぶ		
	8	手術 麻酔	手術・輸血・麻酔の算定方法を学ぶ		
	9	検査	検査の種類、算定方法を学ぶ		
	10	検査 病理診断	検査のレセプトの書き方、病理診断の種類・算定方法を学ぶ		
	11	画像診断	画像診断の算定方法を学ぶ		
	12	外来レセプト作成	外来レセプト作成練習		
	13	外来レセプト作成	外来レセプト作成練習		
	14	外来レセプト作成	外来レセプト作成練習		
	15	期末テスト、検定対策	期末テスト、検定対策		
	16	要点確認、点検 医科医療事務技能認定試験 過去問題	各項目の要点を再確認、点検の要点を学ぶ 過去問題集を使用して、演習・解説		
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。					

授業計画(シラバス)

科目名		医療保険事務2		指導担当者名		篠塚 琴恵	
実務経験		首都圏の医療機関にて臨床検査技師として業務に11年間従事				実務経験：有	
開講時期		前期		対象学科学年		医療事務科1年	
授業方法		講義：○		演習：		実習：	
時間数		32時間		週時間数		2時間	
学習到達目標		医療事務技能認定試験(9月受験予定)医科医療事務管理士技能認定試験(11月受験予定)を目標に学習。※その他奇数月に検定実施。 全員が合格するまで実施する。 検定試験合格に向けて、医療保険制度・診療報酬算定の仕組みを理解し、幅広い基礎力を身に着ける。					
評価方法 評価基準		学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。 期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。 A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。					
使用教材		医科テキスト2～4(算定とレセプト上・下、トレーニングブック)、資料ブック、問題集					
授業外学習の方法		授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。					
学期	ターム	項 目		内容・準備資料等			
授業計画 前期	1	医療従事者としての基本と心構え 医療事務の仕事⑤～⑧		医療事務の基礎知識			
	2	初・再診		初・再診料の算定方法を学ぶ			
	3	投薬		投薬の仕組み・算定方法を学ぶ			
	4	投薬		投薬の仕組み・算定方法を学ぶ			
	5	注射		注射の算定方法を学ぶ			
	6	医学管理 在宅医療		医学管理・在宅の算定方法を学ぶ			
	7	処置 リハビリテーション		処置・リハビリテーションの算定方法を学ぶ			
	8	手術 麻酔		手術・輸血・麻酔の算定方法を学ぶ			
	9	検査		検査の種類、算定方法を学ぶ			
	10	検査 病理診断		検査のレセプトの書き方、病理診断の種類・算定方法を学ぶ			
	11	画像診断 放射線・精神科専門療法		画像診断・放射線・精神科専門療法の算定方法を学ぶ			
	12	外来レセプト作成		外来レセプト作成練習			
	13	外来レセプト作成		外来レセプト作成練習			
	14	外来レセプト作成		外来レセプト作成練習			
	15	期末テスト、検定対策		期末テスト、検定対策			
	16	要点確認、点検 医科医療事務技能認定試験 過去問題		各項目の要点を再確認、点検の要点を学ぶ 過去問題集を使用して、演習・解説			
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。							

授業計画(シラバス)

科目名	レセプト実習1		指導担当者名	篠塚 琴恵	
実務経験	首都圏の医療機関にて臨床検査技師として業務に11年間従事			実務経験:	有
開講時期	前期		対象学科学年	医療事務科1年	
授業方法	講義:	演習:○	実習:○	実技:	
時間数	32時間		週時間数	2時間	
学習到達目標	医療事務技能認定試験(9月受験予定)医科医療事務管理士技能認定試験(11月受験予定)を目標に学習。※その他奇数月に検定実施。 全員が合格するまで実施する。 検定試験合格に向けて、医療保険制度・診療報酬算定の仕組みを理解し、幅広い基礎力を身に着ける。				
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。 期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。 A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。				
使用教材	医科テキスト2～4(算定とレセプト上・下、トレーニングブック)、資料ブック、問題集				
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。				
学期	ターム	項 目	内容・準備資料等		
授業計画 前期	1	医療従事者としての基本と心構え 医療事務の仕事①～④	医療事務の基礎知識		
	2	初・再診	初・再診料のレセプト記入方法について学ぶ		
	3	投薬	投薬のレセプト記入方法について学ぶ		
	4	投薬	投薬のレセプト記入方法について学ぶ		
	5	注射	注射のレセプト記入方法について学ぶ		
	6	医学管理 在宅医療	医学管理・在宅のレセプト記入方法について学ぶ		
	7	処置 リハビリテーション	処置・リハビリテーションのレセプト記入方法について学ぶ		
	8	手術 麻酔	手術・輸血・麻酔のレセプト記入方法について学ぶ		
	9	検査	検査のレセプト記入方法について学ぶ		
	10	検査 病理診断	検査・病理診断のレセプト記入方法について学ぶ		
	11	画像診断	画像診断のレセプト記入方法について学ぶ		
	12	外来レセプト作成	外来レセプト作成練習		
	13	外来レセプト作成	外来レセプト作成練習		
	14	外来レセプト作成	外来レセプト作成練習		
	15	期末テスト、検定対策	期末テスト、検定対策		
	16	要点確認、点検 医科医療事務技能認定試験 過去問題	各項目の要点を再確認、点検の要点を学ぶ 過去問題集を使用して、演習・解説		
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。					

授業計画(シラバス)

科目名		レセプト実習2		指導担当者名		篠塚 琴恵	
実務経験		首都圏の医療機関にて臨床検査技師として業務に11年間従事				実務経験： 有	
開講時期		前期		対象学科学年		医療事務科1年	
授業方法		講義：		演習：○		実習：○ 実技：	
時間数		32時間		週時間数		2時間	
学習到達目標		医療事務技能認定試験(9月受験予定)医科医療事務管理士技能認定試験(11月受験予定)を目標に学習。※その他奇数月に検定実施。 全員が合格するまで実施する。 検定試験合格に向けて、医療保険制度・診療報酬算定の仕組みを理解し、幅広い基礎力を身に着ける。					
評価方法 評価基準		学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。 期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。 A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。					
使用教材		医科テキスト2～4(算定とレセプト上・下、トレーニングブック)、資料ブック、問題集					
授業外学習の方法		授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。					
学期	ターム	項 目		内容・準備資料等			
授業計画 前期	1	医療従事者としての基本と心構え 医療事務の仕事⑤～⑧		医療事務の基礎知識			
	2	初・再診		初・再診料のレセプト記入方法について学ぶ			
	3	投薬		投薬のレセプト記入方法について学ぶ			
	4	投薬		投薬のレセプト記入方法について学ぶ			
	5	注射		注射のレセプト記入方法について学ぶ			
	6	医学管理 在宅医療		医学管理・在宅のレセプト記入方法について学ぶ			
	7	処置 リハビリテーション		処置・リハビリテーションのレセプト記入方法について学ぶ			
	8	手術 麻酔		手術・輸血・麻酔のレセプト記入方法について学ぶ			
	9	検査		検査のレセプト記入方法について学ぶ			
	10	検査 病理診断		検査・病理診断のレセプト記入方法について学ぶ			
	11	画像診断		画像診断のレセプト記入方法について学ぶ			
	12	外来レセプト作成		外来レセプト作成練習			
	13	外来レセプト作成		外来レセプト作成練習			
	14	外来レセプト作成		外来レセプト作成練習			
	15	期末テスト、検定対策		期末テスト、検定対策			
	16	要点確認、点検 医科医療事務技能認定試験 過去問題		各項目の要点を再確認、点検の要点を学ぶ 過去問題集を使用して、演習・解説			
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。							

授業計画(シラバス)

科目名		医療関連法規1		指導担当者名		松川 美香	
実務経験		調剤薬局に2年間、行政の保険者点検業務、医療事務講師を8年5ヶ月間従事				実務経験:	有
開講時期		前期		対象学科学年		医療事務科1年	
授業方法		講義:○		演習:		実習:	
時間数		32時間		週時間数		2時間	
学習到達目標		医療事務技能認定試験(9月受験予定)医科医療事務管理士技能認定試験(11月受験予定)を目標に学習。※その他奇数月に検定実施。 基本的に全員が合格するまで実施する。 検定試験合格に向けて、医療保険の仕組みや種類、医療法などについて学ぶ。					
評価方法 評価基準		学期末試験の実施及び出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価する。 期末試験は筆記試験により行い、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件とする。 期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。 A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。					
使用教材		テキスト1 医療保障制度、医療事務管理士技能認定試験過去問題集					
授業外学習の方法		授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。					
学期	ターム	項 目		内容・準備資料等			
授業計画 前期	1	医療保険のしくみ		医療保障制度			
	2	医療保険のしくみ		医療保険の種類・被保険者証の見方			
	3	保険給付のしくみ		保険給付の範囲・種類、給付割合と患者負担割合、高額療養費			
	4	保険給付のしくみ		保険外併用療養費			
	5	その他医療保障制度		公費負担医療制度の概要、生活保護法、難病法			
	6	その他医療保障制度		感染症法、労災保険、自賠責保険			
	7	その他医療保障制度		介護保険			
	8	演習		過去問題			
	9	演習		過去問題			
	10	演習		過去問題			
	11	演習		過去問題			
	12	演習		過去問題			
	13	演習		過去問題			
	14	演習		過去問題			
	15	期末テスト		期末テスト			
	16	検定対策		検定対策			
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。							

授業計画(シラバス)

科目名	医療用語		指導担当者名	高田 明日香
実務経験				実務経験:
開講時期	前期		対象学科学年	医療事務科1年
授業方法	講義:○	演習:○	実習:	実技:
時間数	32時間		週時間数	2時間
学習到達目標	医療事務技能認定試験に出題される医療用語を中心に学び、就職先で必要となってくる基礎的な医療用語の知識を習得する。			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。 期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。 A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。			
使用教材	課題プリント配布、その他各自で資料準備			
授業外学習 の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。			
学期	ターム	項 目	内容・準備資料等	
授業計画 前期	1	医療事務技能認定試験に出題される用語について	各項目ごとの用語について説明	
	2	病院用語、疾患名、カルテ用語等	用語プリント課題(テキスト2に関する用語)	
	3	病院用語、疾患名、カルテ用語等	用語プリント課題(テキスト2に関する用語)	
	4	病院用語、疾患名、カルテ用語等	用語プリント課題(テキスト2に関する用語)	
	5	病院用語、疾患名、カルテ用語等	用語プリント課題(テキスト2に関する用語)	
	6	病院用語、疾患名、カルテ用語等	用語プリント課題(テキスト3に関する用語)	
	7	病院用語、疾患名、カルテ用語等	用語プリント課題(テキスト3に関する用語)	
	8	病院用語、疾患名、カルテ用語等	用語プリント課題(テキスト3に関する用語)	
	9	病院用語、疾患名、カルテ用語等	用語プリント課題(テキスト3に関する用語)	
	10	病院用語、疾患名、カルテ用語等	用語プリント課題(略語に関する用語)	
	11	病院用語、疾患名、カルテ用語等	用語プリント課題(略語に関する用語)	
	12	病院用語、疾患名、カルテ用語等	用語プリント課題(略語に関する用語)	
	13	カルテの読み取り	実際のカルテを見ながら、医療用語や略語を読み取る	
	14	カルテの読み取り	実際のカルテを見ながら、医療用語や略語を読み取る	
	15	期末テスト対策	期末テスト対策	
	16	期末テスト	期末テスト	
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。				

授業計画(シラバス)

科目名		文書作成実習		指導担当者名		古川 美恵子		
実務経験		OA機器会社にインストラクターとして17年間勤務、後ウィンドウズのアプリケーション指導に従事				実務経験:	有	
開講時期		前期		対象学科学年		医療事務科1年		
授業方法		講義:○		演習:◎		実習:○		実技:◎
時間数		64時間		週時間数		4時間(1～16ターム)		
学習到達目標		ビジネス文書の作成・編集は元より、図形や写真を効果的に使った文書の作成や、業務の効率アップができるテクニックを身に付ける。基礎知識を確認しながら、学習計画を立てることにより、出題範囲の機能を理解し、操作方法をマスターする。 Word文書処理技能認定試験3級を目標に学習。						
評価方法 評価基準		学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。 期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。 A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。						
使用教材		Word2021クイックマスター基本編、Word文書処理技能認定試験3級問題集						
授業外学習の方法		授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。						
学期	ターム	項 目			内容・準備資料等			
授業計画 前期	1	Chapter1、2			Wordの基本操作			
	2	Chapter3			文書の編集			
	3	Chapter4			文書の印刷			
	4	Chapter5			文書の作成			
	5	Chapter6			表を使った文書の作成			
	6	Chapter7			図形や画像を使った文書の作成			
	7	練習問題			練習問題1～3			
	8	模擬問題			模擬問題1～2			
	9	模擬問題			模擬問題3～4			
	10	模擬問題			模擬問題5～6			
	11	模擬試験			模擬試験			
	12	模擬試験			模擬試験			
	13	模擬試験			模擬試験			
	14	模擬試験			模擬試験			
	15	模擬試験			模擬試験			
	16	期末試験			期末試験			
履修上の留意点 pcは個人所有の使用となるので、忘れないようにすること 休み時間中にpcを設置しておき授業に臨むこと 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する								

授業計画(シラバス)

科目名		プレゼンテーション実習		指導担当者名		太田 光則	
実務経験		情報分野を含めた企業コンサルタント会社を経営				実務経験： 有	
開講時期		前期		対象学科学年		医療事務科1年	
授業方法		講義：	演習：		実習：○		実技：
時間数		64時間		週時間数		4時間	
学習到達目標		マイクロソフトPowerPoint操作方法及び、プレゼンテーション技法を学び、ビジネスユースにあったプレゼンテーションを自ら実践出来るようにするため、スライド作成能力とプレゼン実践力を身に付ける。また、9月に行われる、「PowerPoint技能認定試験初級」の取得を目指す。					
評価方法 評価基準		学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)（優）、B(70点～79点)（良）、C(60点～69点)（可）、D(0点～59点)（不可）、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。					
使用教材		PowerPoint 2021クイックマスター基本編、PowerPoint プレゼンテーション技能認定試験問題集					
授業外学習の方法		授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。					
学期	ターム	項 目		内容・準備資料等			
授業計画 前期	1	プレゼンテーション概要		プレゼンテーションの必要性			
	2	パワーポイントの基礎知識		パワーポイントの画面構成・操作			
	3	プレゼンテーション作成		スライドの作成方法 保存方法 他			
	4	プレゼンテーションの構成とデザイン 文字の編集		スライドの構成 文字表現			
	5	オブジェクトの作成		図形・表・クリップアートの利用と作成			
	6	自己紹介 スライド作成実習		【自分オリジナル】自己紹介スライド作成			
	7	表示効果とハイパーリンク		画面切り替え効果とアニメーション			
	8	スライドショーの実行		スライドショーの実行操作・自動実行			
	9	自分の好きな場所 までの地図をスライドで作成		【自分オリジナル】 地図スライド作成			
	10	テーマカスタマイズ スマートアート		テーマのカスタマイズ			
	11	グラフの追加・図の加工 プレゼン動作設定		スライドへ図の追加 セクション設定等			
	12	グラフの追加・図の加工 プレゼン動作設定		スライドへ図の追加 セクション設定等			
	13	期末テスト・検定試験に向けて		検定試験 過去問題			
	14	期末テスト・検定試験に向けて		検定試験 過去問題			
	15	期末テスト・検定試験に向けて		検定試験 過去問題			
	16	期末テスト		期末テスト			
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。							

授業計画(シラバス)

科目名	医療保険事務3		指導担当者名	篠塚 琴恵	
実務経験	首都圏の医療機関にて臨床検査技師として業務に11年間従事			実務経験:	有
開講時期	後期		対象学科学年	医療事務科1年	
授業方法	講義:○	演習:	実習:	実技:	
時間数	36時間		週時間数	4時間	
学習到達目標	医療事務技能認定試験(9月受験予定)医科医療事務管理士技能認定試験(11月受験予定)を目標に学習。※その他奇数月に検定実施。 全員が合格するまで実施する。 検定試験合格に向けて、医療保険制度・診療報酬算定の仕組みを理解し、幅広い基礎力を身に着ける。				
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。 期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。 A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。				
使用教材	医科テキスト2～4(算定とレセプト上・下、トレーニングブック)、資料ブック、問題集				
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。				
学期	ターム	項 目	内容・準備資料等		
授業計画 後期	17	前期復習	外来レセプト作成		
	18	要点確認、点検 医科医療事務技能認定試験 過去問題	各項目の要点を再確認、点検の要点を学ぶ 過去問題集を使用して、演習・解説		
	19	要点確認、点検 医科医療事務技能認定試験 過去問題	各項目の要点を再確認、点検の要点を学ぶ 過去問題集を使用して、演習・解説		
	20	放射線・精神科専門療法	放射線・精神科専門療法のレセプト記入方法について学ぶ		
	21	入院料	入院料の算定方法を学ぶ		
	22	入院料	入院料の算定方法を学ぶ		
	23	入院レセプト作成	入院レセプト作成練習		
	24	入院レセプト作成	入院レセプト作成練習		
	25	期末テスト、入院レセプト作成	期末テスト、入院レセプト作成練習		
	26				
	27				
	28				
	29				
	30				
	31				
	32				
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。					

授業計画(シラバス)

科目名	レセプト実習3		指導担当者名	篠塚 琴恵	
実務経験	首都圏の医療機関にて臨床検査技師として業務に11年間従事			実務経験:	有
開講時期	後期		対象学科学年	医療事務科1年	
授業方法	講義:	演習:○	実習:○	実技:	
時間数	36時間		週時間数	4時間	
学習到達目標	医療事務技能認定試験(9月受験予定)医科医療事務管理士技能認定試験(11月受験予定)を目標に学習。※その他奇数月に検定実施。 全員が合格するまで実施する。 検定試験合格に向けて、医療保険制度・診療報酬算定の仕組みを理解し、幅広い基礎力を身に着ける。				
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。 期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。 A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。				
使用教材	医科テキスト2～4(算定とレセプト上・下、トレーニングブック)、資料ブック、理解度チェック				
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。				
学期	ターム	項 目	内容・準備資料等		
授業計画 後期	17	前期復習	外来レセプト作成		
	18	要点確認、点検 医科医療事務技能認定試験 過去問題	各項目の要点を再確認、点検の要点を学ぶ 過去問題集を使用して、演習・解説		
	19	要点確認、点検 医科医療事務技能認定試験 過去問題	各項目の要点を再確認、点検の要点を学ぶ 過去問題集を使用して、演習・解説		
	20	放射線・精神科専門療法	放射線・精神科専門療法のレセプト記入方法について学ぶ		
	21	入院料	入院料の算定方法を学ぶ		
	22	入院料	入院料の算定方法を学ぶ		
	23	入院レセプト作成	入院レセプト作成練習		
	24	入院レセプト作成	入院レセプト作成練習		
	25	期末テスト、入院レセプト作成	期末テスト、入院レセプト作成練習		
	26				
	27				
	28				
	29				
	30				
	31				
	32				
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。					

授業計画(シラバス)

科目名	医療関連法規2		指導担当者名	松川 美香	
実務経験	調剤薬局に2年間、行政の保険者点検業務、医療事務講師を8年5ヶ月間従事			実務経験:	有
開講時期	後期		対象学科学年	医療事務科1年	
授業方法	講義:	演習:○	実習:	実技:	
時間数	18時間		週時間数	2時間	
学習到達目標	医療事務技能認定試験(9月受験予定)医科医療事務管理士技能認定試験(11月受験予定)を目標に学習。※その他奇数月に検定実施。 基本的に全員が合格するまで実施する。 検定試験合格に向けて、医療保険の仕組み・医療費計算・診療報酬明細書の作成方法を学ぶ。				
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価する。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上が要件。 期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。 A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。				
使用教材	テキスト1 医療保障制度、医療事務管理士技能認定試験過去問題集				
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業計画 後期	17	医科管理士技能認定試験に向けて 学科(法規)過去問題等の演習、解説、補足等	過去問題演習・解説		
	18	医科管理士技能認定試験に向けて 学科(法規)過去問題等の演習、解説、補足等	過去問題演習・解説		
	19	医科管理士技能認定試験に向けて 学科(法規)過去問題等の演習、解説、補足等	過去問題演習・解説		
	20	医科管理士技能認定試験に向けて 学科(法規)過去問題等の演習、解説、補足等	過去問題演習・解説		
	21	医科管理士技能認定試験に向けて 学科(法規)過去問題等の演習、解説、補足等	過去問題演習・解説		
	22	医科管理士技能認定試験に向けて 学科(法規)過去問題等の演習、解説、補足等	過去問題演習・解説		
	23	医科管理士技能認定試験に向けて 学科(法規)過去問題等の演習、解説、補足等	過去問題演習・解説		
	24	医科管理士技能認定試験に向けて 学科(法規)過去問題等の演習、解説、補足等	過去問題演習・解説		
	25	期末試験			
履修上の留意点					
出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。					